

機関番号：32415  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2008～2010  
 課題番号：20330166  
 研究課題名（和文）授業研究を核とする「学校づくり」運動に関する総合的研究  
 研究課題名（英文）The Overall Research on "School-reform" Movement that Makes Research on Teaching  
 研究代表者  
 横須賀 薫（YOKOSUKA KAORU）  
 十文字学園女子大学・人間生活学部・教授  
 研究者番号：60006442

研究成果の概要（和文）：昭和年代の授業研究を核とする学校改革運動を指導した中心人物である斎藤喜博（1911-1981）について、その教育理念、活動実績、著書等のリスト化を行い、未公開の重要資料について複写し、保存する作業を行った。さらにこれまでの斎藤喜博研究の成果の集約化を行い、あわせて研究代表者が監修する研究論文集「斎藤喜博研究の現在」を刊行する準備を行った。

研究成果の概要（英文）：Saito Kihaku (1911-1981) had guided the school reform movement that made the research on teaching at the age of the Showa era. This study made a list of Saito's educational philosophy, activity results, books and copied the undisclosed important documents and saved them. In addition, we consolidated the result of his research, and prepared for publishing the research paper "Present of the Saito research" which has supervised by the research worker.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2009年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2010年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
年度			
年度			
総計	11,900,000	3,570,000	15,470,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：授業研究 斎藤喜博 島小学校 学校づくり 教授学

## 1. 研究開始当初の背景

昭和の年代において教育界に広く知られた斎藤喜博の名やその著作もすでに忘れられつつあるのが昨今である。また、名を知っているとしてもその具体的活動、成果等は十分に把握されてはいない。教育学研究の世界からは名人芸としてのみみられ、その価値は不当に低く扱われている。それは斎藤喜博の

遺した研究成果が現実の教育実践・研究に対する意義が少ないせいではなく、日本の教育学がまだ大学中心の研究と学校現場における実践とに分離し、後者の価値を低く見ているせいである。斎藤喜博が志し、それを受け継ごうとした研究者は大学における研究と学校現場における実践的研究とをつなぎ、統合しようという志をもってこの「授業研究

を核とする「学校づくり」運動」に参加し、研究と実践とを続けてきたのである。

それはこの国の教育研究と教師の養成において、いまだ成立していない、医学研究・医師養成における基礎医学と臨床医学との拮抗に比すことができる、教育研究における「臨床」部門の確立につながるものである。

さらにこの運動は公立学校（小学校、中学校、高等学校）及び私立幼稚園を基盤として展開されたが、一方その当時に在任した教師たちの自主的教育活動として展開されたため関係資料等が個人において保存されたケースが圧倒的なため、すでに30年近い時間経過の中で、散逸する危険性が非常に高くなっている。また、資料のほとんどは紙媒体に記録されたものなのでやがて判読が困難になる危険性がある。運動の性質上、映像による資料、音声による資料もかなりの量となるがこれは紙媒体以上に消失の危険性が高い。これらの資料について永久保存が可能な媒体に転換して保存策を講じる必要がある。

## 2. 研究の目的

「授業研究を核とする『学校づくり』運動」とは、斎藤喜博（1911－1981）が、校長職にあった群馬県佐波郡島村（当時）小学校（以下、島小）において着手し、その教育研究成果を8次に及ぶ「学校公開研究会」（以下、公開研）において全国に発表したものを原点として、その影響下に1970年代以降に、全国の小、中、高校、大学、幼稚園において展開された教育運動を指す。本研究は、この運動について、その斎藤喜博以前の系譜、斎藤喜博自身の業績、その影響関係に展開された活動について、公開研の実施を中心にして残された資料の収集と保存に当たることを最大の目的とする。そのため当時の関係者個人（又は遺族）の下に残されている資料の所在を確認し、提供を受け、可能な場合は現物を保存、整理し、それが不可能な場合には複写することで保存、整理する。さらにそれら資料の内、貴重なものについては永久保存が可能となるようにデジタル化するなどして保存体制を確実なものにするようにする。

さらにそれら資料等を分析研究することを通して、当時の運動の実像を明らかにするようになるとともに、今後の教育研究の新しい展開に資する研究視点と研究基盤を学界及び教育現場に提供することを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 原資料の収集・分析・文献リスト作成と公表（島小関係の原資料の発掘及び整理）

①斎藤家資料（斎藤喜博自身の書斎・文庫は逝去後遺族の手で保存されているが未公開の状態である。斎藤自身の執筆したものはほとんど公開されているが、島小の教育実践に

携った教師たちの学習指導案、実践記録のものになったもの等が残されている可能性が高く、この調査はぜひとも必要である）

②武田常夫関係資料（島小の有力な実践家であった故武田常夫には、実践の形成過程を示すぼう大なノート類があり、武田家において保存されている。この調査、分析は武田の諸実践記録のもとになったものを探る意味で重要である）

③川嶋家資料（島小の教育実践を写真撮影したカメラマン故川嶋浩氏の遺族宅にぼう大な量の写真ネガが遺されている。この貴重な資料を整理し、さらに永久保存できる態勢を調える）

(2) 原資料の収集・分析・文献リスト作成と公表（教員養成関係における斎藤喜博関係の資料の収集、整理、分析）

斎藤喜博は1970年代から各地の教員養成大学において教師となる学生たちに直接講義、演習を行う活動を展開している。その関係の資料は多い。

対象となるのは a. 大分大教育学部 b. 宮城教育大教育学部 c. 都留文科大学文学部における講義、演習の内容の復元を行うことである。特に b. 宮教大では専任教授2年間を含めて、前後6年間にわたって講義、演習が行われている。この間に斎藤が行った実技指導に関する映像と音声の資料が多数残されている。これらが消滅しないうちに半永久保存する必要がある。

(3) 原資料の収集・分析・文献リスト作成と公表（1970年代後半からの学校公開研関係の資料の発掘、保存、分析）

斎藤喜博は公職（小学校長）退職後に、全国各地の学校に入り、その学校の校長と連携し、実地に指導に当たり、その成果を公開研として公表する活動を行っている。それは自身が校長として指導に当たった島小をモデルとして全国に同様の学校をつくることを通して、学校改革を実現しようとしたものである。

実地に指導に入った学校としては a. 御影小学校（神戸） b. 大田小学校（広島） c. 三本木中学校（青森） d. 室蘭啓明高校（北海道） e. 東陵小学校（石川） f. 森山東小学校（長崎） g. 七百中学校（青森）などがある。

この公開研に関する資料は公式のものは各学校で記録され、保存されているとみられるが、個々の教員たちがどのように指導を受け止め、それを授業と表現活動の実践に生かしたかは、その個々の教師のもとに残されている可能性が大きい。しかし、それについても次第に廃棄され、消滅する危険性が高まってきている。本研究に参加する研究代表者、研究分担者の何人かは当時直接これらの公開校に行き、公開研に参加しているの、ある程度の事情、人間関係を把握しているので、

この仕事を遂行するには適任であるので、この機会にぜひ資料の発掘、整理、保存、分析の仕事を進めることとする。

さらに斎藤喜博とともに各地の学校に入り、斎藤の指導の方法を直接に学んだ数人の教育学者は、その後自身が各地の学校に入って直接、授業と表現活動を指導し、公開研を実現している。その関係の資料についても収集、整理、保存の対象とする。

#### (4) 斎藤喜博の思想形成に関する研究

本研究に参加する研究代表者、研究分担者、連携研究者全員各自の問題意識に沿って研究し、全員が会して討議を行う。

本研究に参加する研究者全員は、平成14年に「斎藤喜博研究会」の結成に参加し、これまでに研究会を継続してきた経緯がある。そのなかで各自が自身の問題意識に即し

- ① 斎藤喜博の生涯、思想の形成
- ② 教育実蹟、影響関係等について
- ③ 文献等、資料の発掘整理

などに関して研究、発表し、全体で討議を行ってきた。これまでに斎藤喜博の思想形成に重要な役割を果たしたアララギ短歌会との関係、教育科学研究会運動との関係、同時代に展開された大学側の主体による授業研究の動向、などが報告、検討されている。また、島小教育をどのように評価するかという観点、島小教育をどのように時期区分するか、などの問題が討議されている。さらに斎藤喜博の思想総体をどのようにとらえるべきかという課題について、従来の研究方法ではなく現象学的方法においてこそ可能となるという問題提起がなされ、それぞれ今後継続して検討を続けることになっている。

#### (5) 成果の発表

研究の最終年度に「斎藤喜博に関する総合的研究」(仮題)を公刊する。

#### 4. 研究成果

(1) 原資料の収集・分析・文献リスト作成と公表

##### ① 斎藤家資料

残念ながら遺族側の事情で実現に至っていない。

##### ② 武田常夫関係資料

ノート類の整理、保存が進められ、近々リスト等を公開できる予定である。

##### ③ 川嶋家資料

島小学校における教育実践の事実を1万枚以上の写真に記録したカメラマン故川嶋浩の遺族宅に残されている写真ネガを永久保存可能なデジタル化を行い、あわせて川嶋環氏、船戸咲子氏らからその場面ごとの実践の様相を聞き取り、その証言をすべて録画した。

(2)についてはほぼ予定通り進み、原資料をデジタル化して保存できる状態となった。

(3)については b. 大田小学校 d. 室蘭啓明高校 f. 森山東小学校などについてデジタル化を進め、保存できる状態となった。

#### (4) 斎藤喜博の思想形成に関する研究

研究代表者及び研究分担者、連携研究者などは斎藤喜博研究会を組織し、毎年2回定期的に研究会を組織し、各自が研究発表を行い、全員による検討を行ってきた。そこで扱われた研究は

- ① 昭和戦前期における斎藤喜博
- ② 斎藤喜博と教育科学研究会
- ③ 斎藤喜博の教育と短歌
- ④ こどもへの絶対的教育愛・斎藤喜博の根源にあるもの
- ⑤ 斎藤教授学における教育方法・技術の科学性
- ⑥ 斎藤喜博の学校づくりにおける「遊び」の哲学
- ⑦ いわゆる斎藤教授学なる問題群
- ⑧ 斎藤喜博の学力論の地平

#### (5) 成果の発表

横須賀薫編・著『斎藤喜博研究の現在』として(春風社より)近刊予定。予定している内容は次の通り。

- ① 斎藤喜博研究の課題
- ② 斎藤喜博における教授学の形成
- ③ 斎藤喜博と島小実践
- ④ 斎藤喜博の教授学の独自性
- ⑤ 関連資料 a. 斎藤喜博関連年表一覧 b. 斎藤喜博評伝及び研究等単行書目録 c. 斎藤喜博関係文献目録一覧 d. 斎藤喜博研究会報告一覧

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計14件)

- ① 本間明信、斎藤喜博、学習形態の成立をめぐる、宮城教育大学紀要、査読無、45巻、2011、227-239
- ② 吉村敏之、雑誌『教育論叢』における学習指導法研究—教師による教科学習の改善、宮城教育大学紀要、査読無、45巻、2011、241-248
- ③ 狩野浩二、大学に期待してはいけないこと、期待したいこと、ジァース教育新社会「SYNAPSE」通巻3号、査読無、3号、2010、2-3
- ④ 横須賀薫、教員養成制度改革の現段階(特集テーマ 大学と教員養成)、『IDE』IDE大学協会、査読無、513号、2009、10-14
- ⑤ 本間明信、教材開発の原則:「円周率」の学習プラン、宮城教育大学紀要、査読無、44巻、2009、237-250

- ⑥ 狩野浩二、授業研究を核とする学校づくり運動に関する総合的研究—島小における表現活動の発生と展開—、十文字学園女子大学人間生活学部紀要、査読無、7巻、2009、33—46
- ⑦ 田端健人、斎藤喜博の学校づくりにおける「遊び」の構造、『宮城教育大学紀要』、査読無、第44巻、2009、199—216
- ⑧ 狩野浩二、心をひらく学校—沖縄県那覇市立宇栄原幼稚園・小学校（横山芳春校長）の学校づくり—、学校マネジメント、査読無、第48巻、第1号、2009、56—57
- ⑨ 横須賀薫、共同研究の出発にあたって特に教員養成における「臨床部門」の確立のために、児童教育実践研究（十文字学園女子大学）、査読無、第1巻、第1号、2008、1—8
- ⑩ 横須賀薫、教員養成における教職大学院の役割、文部科学時報、査読無、通巻1597号、2008、54—55
- ⑪ 本間明信、「未来につながる学力」の追求—群馬県島小学校における「授業の創造」、宮城教育大学紀要、査読無、第43号、2008、223—230
- ⑫ 吉村敏之、何のために授業を研究するのか（授業研究の目的）、宮城教育大学紀要、査読無、第43号、2008、231—244
- ⑬ 狩野浩二、授業研究を核とする学校づくり運動に関する総合的研究—島小写真記録の分析を中心に—、十文字学園女子大学人間生活学部紀要、査読無、第6巻、2008、39—52
- ⑭ 狩野浩二、指導力向上を謳う教員教育制度の展望と課題、体育科教育、査読無、第56巻、第7号、2008、22—25

〔学会発表〕（計10件）

- ① 狩野浩二、授業研究を核とする学校づくりに関する実証的研究—島小写真記録と斎藤喜博教授学—、日本教育方法学会第46回大会、2010年10月10日、国土館大学
- ② 吉村敏之、雑誌『教育論叢』における国語指導法研究、日本教育方法学会第46回大会、2010年10月9日、国土館大学
- ③ 狩野浩二、授業づくりを核とする学校づくり運動に関する総合的研究—島小における表現活動の発生と展開—、第45回日本教育方法学会大会、2009年9月27日、香川大学
- ④ 本間明信、斎藤喜博の孤立：玉村小学校と島小学校、日本教育学会第68回大会、2009年8月29日、東京大学駒場キャンパス
- ⑤ 吉村敏之、雑誌『教育論叢』における学習指導法研究：学級の事実にあたる方法

- の創造、日本教育学会第68回大会、2009年8月29日、東京大学駒場キャンパス
- ⑥ 本間明信、学習形態再考、日本教育学会第68回大会ラウンドテーブル、2009年8月29日、東京大学駒場キャンパス
- ⑦ 狩野浩二、聞き取り調査による教育実践史料の再検討、第44回日本教育方法学会大会、2008年10月12日、愛知教育大学
- ⑧ 本間明信、島小学校授業記録の異同—『典型』ということ、日本教育学会第67回大会、2008年8月30日、佛教大学
- ⑨ 吉村敏之、岡田刀水士の学習指導法—子どもの生活を見る、日本教育学会第67回大会、2008年8月30日、佛教大学
- ⑩ 本間明信、吉村敏之、島小学校の授業記録—『授業の典型』を求めて、日本教育学会第67回大会ラウンドテーブル、2008年8月30日、佛教大学

〔図書〕（計4件）

- ① 狩野浩二、日本標準、教育目標・評価学会編「評価の時代」を読み解く〈上〉教育目標・評価研究の課題と展望、2010、190（分担執筆84—93）
- ② 横須賀薫、春風社、教師養成教育の探究、2010、234
- ③ 狩野浩二、ミネルヴァ書房、梶田叡一、山際隆編著『教育の最新事情』、2009、238（分担執筆50—69）
- ④ 横須賀薫、河出書房新社、図説 教育の歴史、2008、111（4—6、22—31、50—59、86—106）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横須賀 薫 (YOKOSUKA KAORU)  
十文字学園女子大学・人間生活学部・教授  
研究者番号：60006442

(2) 研究分担者

狩野 浩二 (KARINO KOUJI)  
十文字学園女子大学・人間生活学部・教授  
研究者番号：90280304  
本間 明信 (HONMA AKINOBU)  
宮城教育大学・教育臨床研究センター・教授  
研究者番号：70106748  
吉村 敏之 (YOSHIMURA TOSHIYUKI)  
宮城教育大学・教育臨床研究センター・准教授  
研究者番号：80261642  
田端 健人 (TABATA TAKEHITO)  
宮城教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：50344742

(3) 連携研究者

箱石 泰和 (HAKOISHI YASUKAZU)

都留文科大学・名誉教授

研究者番号：90073923

廣川 和市 (HIROKAWA KAZUICHI)

札幌学院大学・名誉教授

研究者番号：90047910

野村 新 (NOMURA ARATA)

九州栄養福祉大学・食物栄養学部・教授

研究者番号：30040702